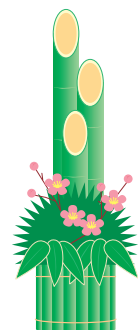


本年もどうぞよろしく願いいたします。
発電所員一同、一致団結し、再稼働に向けて
鋭意取り組んでまいります。



新年のご挨拶

明けましておめでとうございます。

当発電所の運営につきましては、日頃より格別のご理解とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、当発電所は現在、再稼働に向けて新規制基準の適合性審査への対応に全力を挙げて取り組んでおります。

昨年12月1日、2日には、原子力規制委員会による発電所敷地内および敷地周辺の断層等の現地調査が行われました。今回の現地調査では、当社がこれまで説明してきた内容について、調査団メンバーの方々に現地で直接ご確認いただき、ご理解を深めていただくことができました。私といたしましては、審査が良い方向に進み、軌道に乗っていくものと期待しております。

引き続き、原子力規制委員会からのご意見・ご指摘に対し、迅速かつ適時・的確に取り組み、審査が大きく前進するよう、審査への対応に万全を期してまいります。

また、当社では「より、そう、ちから。」をスローガンに、地域に寄り添う、お客さまにより沿うことを約束し、さまざまな事業展開を行っております。当発電所におきまして、長年にわたって培ってきた皆さまとの信頼関係を大切に、より一層、さまざまな地域活動に積極的に取り組んでまいります。

皆さまには、昨年同様、変わらぬご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、皆さまの益々のご健勝を心よりお祈り申し上げます。



東通原子力発電所長
金澤 定男

ロボット操作訓練を実施しました

当発電所は、昨年11月24日、所内において、原子力災害を想定したロボット操作訓練を実施しました。

今回の訓練は、原子力緊急事態支援組織[※]の偵察・軽作業用小型ロボットを用い、障害物を模したミニパイロンなどの移動のほか、2台のロボットを連携させての階段昇降などを行い、操作技能の向上を図りました。

【ロボット操作訓練に参加して】

操作端末とロボットとの間に距離があり、ロボットのカメラ映像だけで現場の状況を把握しなくてはならないなど苦労しましたが、参加者同士で積極的に声を掛け合い、無事訓練の課題を達成することができました。

これからも、訓練を繰り返し行い、緊急時の対応力向上に努めたいと思います。



電気保修課 我妻 一希

※原子力緊急事態支援組織

原子力災害への対応力強化を目的に、当社を含む各原子力事業者が共同で設立した組織。日本原子力発電株式会社の実施主体となり、昨年12月より「美浜原子力緊急事態支援センター」として本格運用を開始。



防護服を着用して
ロボットを遠隔操作する様子(左)

遠隔操作される
2台のロボット(右)



東通中学校において「放射線教室」を開催しました

当発電所は、昨年11月28日、放射線への理解を深めていただくことを目的として、東通中学校の1年生を対象に「放射線教室」を開催しました。当日は、身近にある放射線について、霧箱での観察や測定器を用いた実験を行いながら学習しました。

生徒たちからは「実験が楽しかった。放射線のことがよく分かり良かった」や「身近なところに放射線が使われていることに驚いた。放射線についてもっと知りたくなった」などの感想が寄せられました。

当発電所では、今後も、地域の未来を担う子どもたちの健やかな成長を応援してまいります。



放射線の測定実験の様子